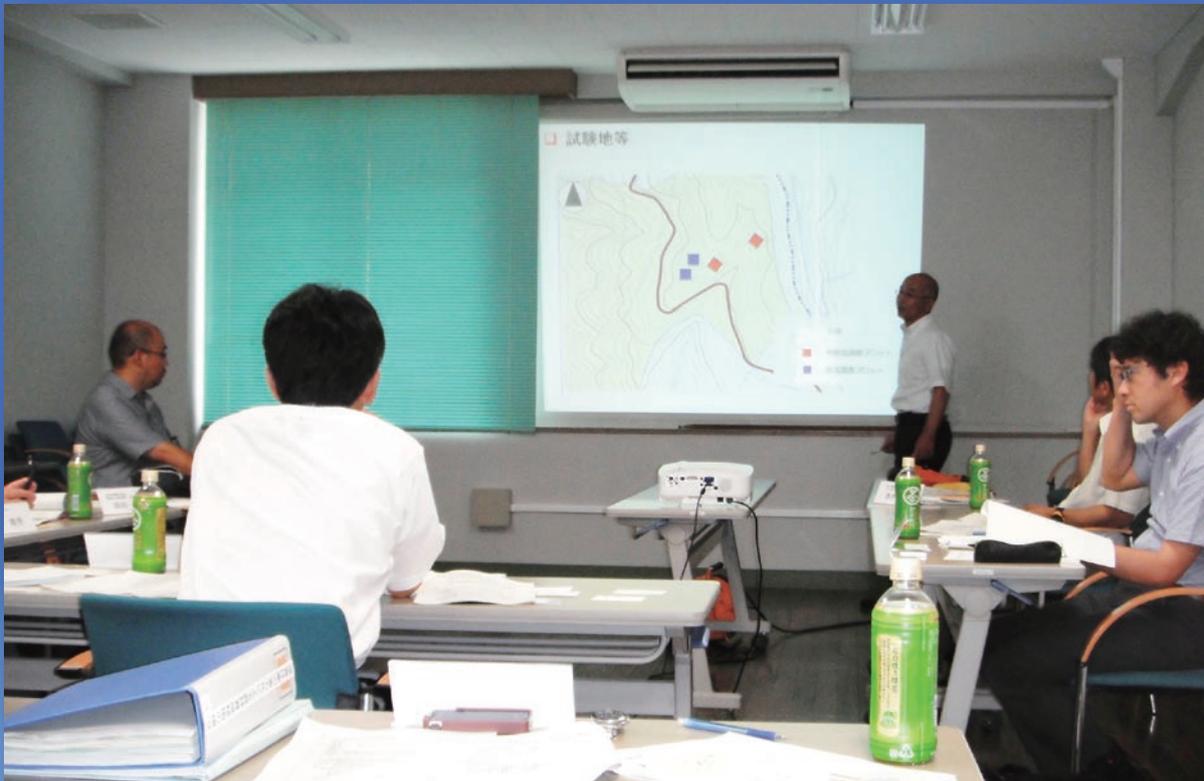




「第一回技術開発委員会」を開催

平成 25 年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。

【詳細は 2 頁】



技術開発課題の説明





平成25年度第1回技術開発委員会

六月一四日、四国森林管理局において、今年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。
技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、技術開発の計画・評価・方法等に



六月一四日、四国森林管理局において、今年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、技術開発の計画・評価・方法等に

- ① 「天然林におけるスギ天然更新技術の確立」では、稚樹の発生に関して、環境の異なる条件毎の更なる分析を行ってはどうか。
- ② 「保育作業の省力化による森林育成技術の確立」では、除伐の省力化には大いに期待しており、様々な異なる試験を検討してはどうか。
- ③ 「ヒノキ天然更新地の更新技術の確立」では、天然更新は不確実性であるが、スギ・ヒノキは手間かければ確実に育つだろう。
- ④ 「囲いわなによる効率的なシカ捕獲試験」では、シカ捕獲の拡大に向け、センサー開発などの更なる普及に期待している。
- ⑤ 「下刈省力化によるシカ食害低減効果の検証」では、シカ食害によるリスクの可能性はあるものの、あらゆる試験を試みることが出来るのは国有林であり期待している。

等各課題に対し多くの意

見が出されました。
今回頂きましたこれらの貴重な意見等を踏まえて、

今後の試験地設定のあり方など技術開発に活かして行くこととしています。



国有林野事業安全週間中の取組みとして、局署等において職員参加による安全大会を開催するなど、職員一人一人の安全意識を高め、決意を新たに災害の未然防止を誓いました。
局においては、週間の初日に局長と業務管理官、三部長による安全旗の掲揚、週間中には各課輪番制による安全旗の掲揚を行い、安全意識の高揚に努めました。
また、七月一日の局の安

全大会では、局長より災害の発生状況、労働災害防止の責務及び交通事故防止の取組等の訓示を受けるとともに、高知警察署形岡交通課長より、「交通事故の防止について」と題して講話が行われ、交通事故の発生状況や、自転車の交通ルールについて説明がありました。また、ヒューマンエンターについて、豪華客船「タイタニック号」の事故を例に挙げて説明があり

職員も熱心に聞き入っていました。

各署等においても工夫を凝らした行事を実施し、安全意識の高揚を図っているところですが、週間に実施したことを単なる行事として捉えず、「安全第一」を共通の認識として今後の安全活動に取り組んでいたきたいと思います。



高知警察署形岡課長(左側) 飲酒状態を再現したゴーグルを付けた職員(右側)

職員定期表彰



平成二五年度国有林野事業職員定期表彰式を六月一日、局大会議室で行いました。

表彰式では、新木局長から受賞者の長年にわたる職務への努力と受賞者を支えてこられた家族の方への労いの言葉と『今年四月から一般会計移行し、今後は一層の公益重視の管理経営を行うとともに、民有林支援の強化を図ることとしていくことから、皆様方が長年に亘り培われた豊富な見識と経験を今後とも活用していくことが必要であり、それぞれの職場において、開かれた「国民のための森林」

平成二五年度国有林野事業に向け、また、民有林も含めた四国全体の森林・林業の活性化に向け、精一杯御尽力願いたい。』との辞式があり、受賞者一人一人に表彰状が手渡されました。

また、受賞者を代表して、総務企画部長の斎藤さんから、「適切で効率的な事業運営の確保を図る中で、新たな国有林野事業の姿を地域に示していくための取組を進め、自分自身に何ができるのかを問いただし、国民や地域の皆様の信頼を得つつ、更に努力を重ねて参りたいと考えております。」と答辞がありました。

永年勤続表彰受賞者

〇三〇年以上(二三名)

総務企画部長 技 斎藤 均

森林整備部長 技 鶴園重幸

総務企画部 技 榛田力男

技 橋本 明

事 山本由香

計画保全部 技 山口誠司

技 松浦尚良

森林整備部 技 森野清繁

技 藤原達博

徳島署 技 宮本 亨

愛媛署 技 松本誠也

技 富田忠男

技 川村之二

技 菅 康生

四万十署 技 金子 浩

高知中部署 技 宮本政澄

技 宮永宏行

技 原田康弘

技 中村哲郎

安芸署 技 内田雅巳

技 田上弘樹

森林技術員

〇二〇年以上(九名)

総務企画部 事 清岡聡子

森林整備部 技 古庄弘英

技 中川往樹

香川所 技 川崎幸子

技 澤村昭文

四万十署 技 川渕貴夫

技 中川正一

嶺北署 事 松本充弘

安芸署 技 岡 一志

技 井 英三

小松郷史



職員定期表彰



間伐作業

五月二三日、高知県
四万十町立北ノ川中学校の
全校生徒二二名を対象に、
北ノ川の学校林で樹木学習
及び間伐体験を実施しまし
た。同校では、毎年学校林
で間伐体験を実施していま



各地のたより



す。今回は、専門的な技術
を指導願いたいと依頼があ
り実施したものです。

最初に、学校林へ行く途
中の民有林作業道周辺の樹
木の学習を実施しました。

その後、学校林到着の
後、学校林内の状況や間伐
の意義及び山の保全等につ
いて説明し、次に間伐の順
序、安全に関する注意事項
を説明しながら、デモンス
トレーションとして間伐を
実施しました。

いよいよ、生徒達の間伐
の体験です。四班に分かれ
て、伐倒方向の確認をした
後、受口、追口とノコギリ
を入れます。最初はノコギ
リがうまく使えず苦労して
いましたが、次第に馴れて

くると上手に使えるように
なりました。倒れきれない
間伐木をロープを使って安
全に倒すと歓声が上がって
いました。

その後、間伐した木を利
用してコースター作りに
挑戦し、できたてのコース
ターの臭いを嗅いだり、友
達と大きさを比べたりして
いました。

「今日の、間伐体験は、
大変だったけど楽しかつ
た。作業道で木の説明をし
ていただいたとても勉強に
なりました。コースターも
作らせてもらってうれし
かったです。正しい間伐の
仕方が理解できたし、森林
のことも勉強できたので良
かったです。」等の感想が
ありました。

生徒達にとって、間伐を
体験することにより、地域

の産業としての林業や、間
伐の大切さ等を理解し、森
林環境についての意識が高
まった一日になったことと
思います。



五月三一日、足摺宇和海
国立公園内にある滑床溪谷
で、愛媛県松野町立松野東
小学校全校児童が「森とも
登山」を行いました。

本校は、愛媛県教育委員
会の「森はともだち推進事
業」の指定校として、平成
二三、二四年度森林学習に
力を注いでいましたが、今
後も引き続き森林にふれ
あっていきたいという嬉し

い言葉をいただき、今回の
森林教室となりました。

まず、午前中は、万年荘
から千畳敷まで約二キロを
往復しました。往路では、
溪谷沿いの歩道を散策しな
がら、「森林のはたらき」
や、「この不思議な溪谷の「お
いたち」「植生」などを勉
強し、復路は林道を歩きな
がらオリジナル絵葉書用の
珍しい葉っぱや花を集めま
した。

歩道には、険しい個所も
ありますが児童は、食虫植
物や大きな木に驚きながら
元気いっぱい力強く進んで
いました。

三時間の登山も終盤に差
し掛かると空腹との戦いに
なり、漏れる言葉は数分お
きに「後何分で着く？」。
待ちに待ったお弁当で栄